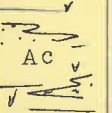

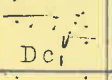

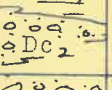
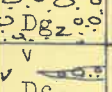
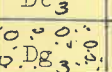
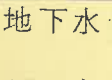


Ⅱ 調 査 結 果

本調査地は泉大津市二田にあり、附近は泉北海岸に平行する沖積面で、地形的にはほぼ平坦であり、現在水田として用いられている。

調査の結果は、巻末地質柱状図及び断面図に示されるが、全体として沖積層と洪積層よりなる。沖積層は軟弱な粘性土及び腐植土よりなり、腐植土の中には特徴的に二次堆積的な火山灰が介在している。洪積層は大部分よく洗われた砂レキ層よりなるが、その下部は層相の変化が激しくなっている。

今回の調査の結果、明らかになつた地質構成は下表のようにまとめられる。

地 層	柱状図	深 度		層 厚		N値	記 事
		No. 1	No. 2	No. 1	No. 2		
沖 積 層	粘性土 	GL— 4.30	GL— 4.40	4.30	4.40	2	含水量多く軟質 全体に有機質で部分的に凝 固状を呈する。
	腐植土 	5.40	5.60	0.90	1.20	6~8	かなり炭化が進む。火山灰 を含む。
洪 積 層	粘性土 	6.90	7.70	1.50	2.10	4~6	青灰色、凝固状全体に細砂 を含む。
	砂レキ 	16.50	14.90	9.60	7.20	25~ 50	含水量大、淡青灰色を呈す る。粒度淘汰不良でφ=2 ~20%大のものが主で粒 子は丸味を帯びる。 低位段丘層に対比される。
	砂レキ及 粘性土 	18.40	18.20	1.90	3.30	粘土 14~16 砂レキ 50	有機質の硬質粘土で砂、細 レキ、腐植物を含み不均質
	砂レキ 	19.70	21.10	1.30	2.90	50	Dg に類似
	粘性土 	24.70	23.20	5.00	2.90	16~19 5~8	青灰色を呈し凝固状、層相 の変化はかなり激しい
	砂レキ 			—	—	50	Dg に類似

なお、地下水位は浅く各孔とも無水掘りで、GL—0.9~0.95m
の位置に認められた。